

平成28年度 水質事故発生状況

・魚死亡事故

発生 月日	水系	支川等	市町村	原因者等	事故の概要
6 20	金目川		平塚市	不明	県立高校から平塚市農水産課に「農業用水路で魚が死んでいる」との通報があり、市環境保全課とともに現地へ向かった。現地では、フナなど魚17匹の死亡が確認され、市農水産課が死亡魚をすべて回収した。また、現地では市環境保全課が採水分析を行ったが、特に異常は確認されなかったため、魚死亡の原因は不明である。その後、新たな死亡魚は確認されなかったため、本件は収束とした。
7 4	酒匂川		山北町	不明	町民から松田警察に「魚が約100匹死んでいる」と通報があった。山北町環境課、県西地域県政総合センター環境保全課(県西C)、松田警察が現地確認を行ったところ、漁協が体長約10cmのヤマメとアユを全量回収していた。現地付近では、魚が泳いでおり、白濁等は確認されなかった。県西Cが原因調査のため、現地付近の事業所に聴取を、飯泉取水管理事務所が採水検査や魚体検査を行ったが、異常は確認されず、原因は特定できなかった。その後も飯泉取水管理事務所が経過監視を行っていたが、異常は確認されなかったため、監視を終了した。県西Cは新たな魚死亡等が確認されておらず、河川への影響がないとし、本件は原因不明で収束した。
9 16	金目川	板戸川	伊勢原市	不明	市民から伊勢原市に「水路でアユが死亡している」との通報があり、同市環境対策課、湘南地域県政総合センター環境保全課(湘南C)が現地確認を実施した。 現地確認では、多数のアユの死亡が見られたが、ハヤヤコイは生存しており、現地でのpH及びCOD等の簡易分析並び死亡魚の外観確認において、異常は確認されなかった。 なお、死亡魚については、市及び平塚土木事務所が5cmから10cmのアユ627尾が回収した。 更に、湘南Cが主体となり現場周辺の工場へのヒアリングを実施し、県水産技術センター内水面試験場が死亡魚の検査を実施したが、原因は特定できなかった。 湘南Cは本件について記者発表を行い、今後も板戸川を経過観察することとして、本件は収束とした。
10 7	金目川	鈴川(農業用水路)	平塚市	不明	市民から平塚市農水産課に「平塚市北金目の水路で小魚が死んでいる」と通報があり、同市環境保全課に情報提供があった。市農水産課が現地を確認したところ、現場では小魚20~30匹程度、藻に絡んだ状態で死んでいたが、近くでコイは泳いでいる状況であった。 市農水産課は現場付近で、2~10cmの小魚50匹程度回収した。同市環境保全課はバックテストを実施したところ、特に水質に異常は無かったため、原因は特定できなかった。また、死亡魚を発見した地点近隣にある金目親水公園の南側を流れる農業用水路も確認したが、死亡魚は確認できなかった。 翌日、市環境保全課が事故現場及び周辺を確認したところ、新たな死亡魚は確認できなかった。死亡魚の回収が完了しており、新たな死亡魚の確認はされていないため、原因不明とし、本件は収束とした。

10	31	相模川	小出川	寒川町、 藤沢市、 茅ヶ崎市	事業者	<p>町民から寒川町環境課に「小出川に泡が浮遊している」と通報があった。町が現地確認したところ、通報箇所から上流の藤沢市及び茅ヶ崎市の市境まで泡浮遊を確認した。</p> <p>茅ヶ崎市が現地確認をしたところ、現場より北側において、周辺の畜舎排水が流入している汚れた水路があり、コイ3匹、小魚5～6匹の死亡を確認した。また、藤沢市は現場付近にて死亡魚（コイ10匹、小魚（魚種不明）26匹）を回収した。原因と推定される畜舎組合から藤沢市に連絡があり、立入検査を実施した。立入検査では、排水処理施設において、畜舎汚泥の引抜を忘れていたため、畜舎排水が水路に流出したと考えられると事業者から説明があった。また、事業者は、畜舎排水の河川放流を停止した。現場付近等の水質分析では、現場付近の河川において、簡易検査ではCODが8mg/L以上、当該畜舎排水ではCODが500mg/L、SSが2,700mg/Lであった。翌日、茅ヶ崎市が現場付近を確認したところ、泡はわずかになっており、大きな異常は確認されなかった。藤沢市が現地付近を確認したところ、死亡していたコイ2匹を回収したが、大きな異常は確認されなかった。また、藤沢市は原因事業所において、排水処理施設の稼働が問題ないことを確認し、原因者に対し、改善対策書を提出するよう指導した。藤沢市による現場対応が終了し、新たな汚染が発生する可能性が低いことから、本件は収束とした。</p>
2	16	新崎川		湯河原町	事業者	<p>町民から湯河原町に「水路で魚が十匹程死亡している」と通報があった。町環境課と県西地域県政総合センター環境保全課(県西C)が現地確認を行ったところ、水路と新崎川の合流地点付近の川底に白い沈殿物が堆積していることが確認された。さらに下流域の調査を行ったところ、新崎橋付近まで白い沈殿物や白濁を確認した。</p> <p>事故前日から、その水路の上流ではトンネルを補強する工事が行われていた。工事を行っていた事業者が現地で聴取を行ったところ、当日未明、工事に伴って発生する排水のpHが上昇し、作業を停止したとのことだった。以上のことから、魚死亡の原因は、工事に使用していた薬剤(注入剤)が湧水とともに水路を通じて流出したためと推定された。事業者はpH測定器を設置して排水のpHの監視を行っていたが、事故当時はpH測定器が故障しており、対応が遅れが生じてしまったと考えられる。さらに河川の白い堆積物は、当該事業者が工事によって流出させたものであると推定された。</p> <p>後日、原因事業者は河川や水路に堆積した沈殿物の回収及び清掃を行った。県西Cは原因事業者に対して、事故原因や再発防止策等について事故報告書を提出するよう指導した。その後、県西Cは原因者による河川等の清掃が終了し、これ以上の河川への影響はないと判断したことから、本件は収束とした。</p>
2	21	酒匂川	仙了川	小田原市	不明	<p>市民から県西土木事務所小田原土木センターに「市内を流れる仙了川でコイが死んでいる」と通報があった。小田原市環境保護課が現地を調査したところ、仙了川の亀井堰付近で大型のコイ約10匹の死亡が確認された。生存しているコイも確認できたが、その動きは鈍かった。このため、市が現場付近で河川の水質の簡易分析を行ったが、pH等の異常はなく、有害物質も検出されなかった。また、コイが死亡していた地点から上下流域の確認を行ったものの、河川の白濁等の異常も見られなかった。さらに、現地で死亡魚の観察を行ったところ、眼の白濁が確認されたが、原因の特定には至らなかった。河川の水質に異常がなく、新たな死亡魚の発生も確認できないことから、本件は原因不明として収束とした。</p>
3	3	相模川	小出川	藤沢市、 茅ヶ崎 市、寒川 町	不明	<p>寒川町内で工事を行っていた業者から藤沢土木事務所へ「小出川の水道橋から一ツ橋の間でコイが20匹死んでいる」と連絡があった。また、住民から寒川町環境課へ「追出橋付近でコイが10匹程度死亡しており、白い泡が浮いている」と通報があった。寒川町、茅ヶ崎市環境保全課、藤沢市環境保全課が現場を確認したところ、小出川の新道橋から一ツ橋までの範囲に多数のコイの死亡が確認され、一ツ橋ではコイ以外の魚の死亡も確認された。寒川町、茅ヶ崎市、藤沢市が死亡魚の回収を行った(回収した死亡魚数は80～90匹)。茅ヶ崎市が一ツ橋及び大黒橋で簡易分析を行ったところ、水質に異常は見られなかったが、一ツ橋で採水した水から畜産臭が確認された。そのため、藤沢市が現場周辺の畜舎の確認を行ったが、原因の特定には至らなかった。その後、3日間、藤沢市が現場確認を行ったところ、小出川に若干の濁りが見られたが、魚等の生息が確認された。新たな死亡魚はなく、死亡魚の回収等の応急対策も終了しているため、今後も継続的な監視を実施することとして、本件は収束とした。</p>

3	8	相模川	小出川	寒川町	不明	<p>住民から寒川町へ「一ツ橋付近でコイが大量に死んでいる」と通報があった。</p> <p>藤沢市、寒川町、茅ヶ崎市が現地確認を行い、一ツ橋から追出橋の間で死亡魚約20匹を回収したが、追出橋より上流では死亡魚はなく、現場周辺では生存魚も数匹確認された。茅ヶ崎市が一ツ橋及び青少年広場付近の水路で、また、藤沢市が新道橋で簡易分析を行ったところ、特に異常はなかった。藤沢市が原因調査のため、現場周辺の畜舎に立入検査を行ったが、その排水に特に異常は見られなかった。新たな死亡魚はなく、現場での死亡魚の回収は終了しているため、今後も継続的な監視を実施することとし、本件は収束とした。</p>
3	22	金目川	板戸川	平塚市	不明	<p>事業者から平塚土木事務所へ「板戸川の岡崎橋付近でフナや小魚が浮いている」と通報があった。湘南地域県政総合センター環境保全課、平塚市環境保全課及び平塚土木事務所が現地確認を行ったところ、岡崎橋上流の赤坂橋付近において、大きさ4～5cmの小魚数十匹の死亡を確認した。なお、死亡魚が確認された範囲は、伊勢原市との市境の境橋下流部から待合橋付近まであり、特に赤坂橋から待合橋付近で多く確認された。現場において、水質の簡易検査を行ったが、特に異常はなく、生きているコイも確認された。平塚市が原因調査を行ったところ、付近での工事の影響も示唆されたが、原因の特定はできなかった。市は新たな死亡魚がなく、これ以上拡大の恐れはないことから、本件は収束とした。</p>